

統計調査ニュース

平成29年（2017）12月

No.373



我が国の労働力の現状のよりの確な把握に向けて ～平成30年1月調査分から労働力調査を見直し～

総務省統計局統計調査部長 佐伯 修司

労働力調査の意義

今回大きな見直しを行う労働力調査は、国民の就業及び不就業の状態を明らかにするための基礎資料を得ることを目的としており、雇用情勢を的確に把握するためにはなくてはならないものです。その結果は、毎月閣議に報告を行っており、完全失業率は、厚生労働省が作成する有効求人倍率と並んで、政策判断に当たっての重要な指標となっています。

労働力調査の変更

労働力調査は、平成30年1月から新たな調査票で調査を実施するなど大きな変更を行います。その目指すところは、①従業上の地位を雇用形態（正規の職員・従業員、パート、アルバイト、派遣社員、契約社員など）・雇用契約期間（定めがない、定めがある（1か月未満から5年超までの7段階））により把握し、多様化する雇用形態に対応した詳細な統計を作成すること、②国際基準を踏まえ、複

数の未活用労働に関する指標^(※)により、多角的に雇用情勢を把握する統計を作成することです。

こうした取組により、現在進められている働き方改革の推進に資するデータを提供することができるよう考えています。なお、時系列比較の観点から、現行の完全失業率については、従前の方法による作成を継続します。調査票を切り替える準備は既に始まっていますが、関係者の皆様におかれては、変更点の十分な確認・徹底をよろしくお願いいたします。

(※) ①就業者であるが「もっと働きたい」と考えている方、②15歳以上で調査期間の1週間に少しも仕事をしなかった方のうち「働きたい」と考えている方などを把握して作成

御礼と今後のお願いについて

総務省統計局では、調査の実施に当たって関係者の皆様の声に耳を傾け、作成・利用両面でできるだけ多くのニーズに応えられるよう努力してきました。今後とも、社会経済の実相を捉え、役立つ統計を関係の皆様と力を合わせて作り

続けていきたいと思えます。また、統計数値の分析にも力を入れていきます（統計局ホームページで「統計トピックス」等を公表）。

社会経済の羅針盤として、ニーズに対応した正確でタイムリーな統計を使いやすい形で提供していくことの大切さは言うまでもないことです。しかし、今年の夏から統計の作成・公表に直接携わる立場に立ってみて、それは一朝一夕では実現できず、関係者の皆様のためまない努力があって初めて歩みを進めることができることを改めて痛感しています。

今回の見直しに当たっても、本当に多くの関係者の皆様のお力があったと承知しており、心からの感謝を申し上げます。また、皆様の引き続きの御理解・御協力と忌憚のない御叱正・建設的な御提案をお願い申し上げます。

目次

我が国の労働力の現状のよりの確な把握に向けて ～平成30年1月調査分から労働力調査を見直し～	1
第67回全国統計大会を開催しました！	2
第2回「地方公共団体における統計利活用表彰」の受賞団体の決定	4

国連アジア太平洋統計研修所 第2回「ポスト2015開発目標のモニタリングに係る統計の作成能力の向上」コースの実地研修について	5
「統計ヘッドラインー統計局月次レポートー」を御活用ください！	6
中核市発とうけい通信 ^④	7

第67回全国統計大会を開催しました！

全国統計大会は、「統計の日」(10月18日)の行事の一つとして、国、地方公共団体、関係団体等の統計関係者が一堂に会し、我が国の統計の進歩・発展のみならず、統計の普及や活用に資することを目的に開催しています。

67回目を迎える今大会は、総務省及び公益財団法人統計情報研究開発センターの主催により、平成29年11月13日(月)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホールにおいて、野田総務大臣も出席し、全国から600名を超える統計関係者の参加の下、開催しました。

開 会

開会に当たって、まず、主催者として、野田聖子総務大臣から挨拶がありました。その後、公益財団法人統計情報研究開発センターの杉浦正健会長から挨拶があり、来賓として東京都の熊谷克三統計部長から祝辞を頂きました。



主催者挨拶をする野田総務大臣

各種表彰

平成29年度に統計調査の実施、統計の普及等に功績のあった方々や団体に対し、地方公共団体における統計利活用表彰、「統計調査功績者」各省大臣表彰、第65回統計グラフ全国コンクール入賞者表彰、大内賞受賞者表彰、「統計の日」標語入選者表彰が行われました。



奥野総務副大臣が受賞者に表彰状を授与する様子

受賞団体・受賞者

《第2回地方公共団体における統計利活用表彰》

総務大臣賞 静岡県(こども未来課)
 統計局長賞 東京都豊島区
 特別賞 茨城県、静岡県(健康増進課)、佐賀県

《「統計調査功績者」各省大臣表彰》

総務大臣表彰 金井 直美氏(千葉県)
 和田 まき代氏(三重県)
 厚生労働大臣表彰 伊藤 恵美子氏(京都府)
 農林水産大臣表彰 土居 米男氏(広島県)
 経済産業大臣表彰 柴田 幸徳氏(長崎県)
 国土交通大臣表彰 株式会社シブヤ建設工業(秋田県)

《第65回統計グラフ全国コンクール》

総務大臣賞
 福永 嘉恩さん(大阪府吹田市立千里丘中学校3年生)
 文部科学大臣賞
 三宅 麗さん(兵庫県神戸市立友が丘中学校3年生)
 日本統計学会会長賞
 上岡 美月さん(大分県立国東高等学校1年生)
 上岡 史子氏(一般)
 日本品質管理学会賞
 小川 芽生さん(新潟県上越市立春日小学校5年生)
 特選
 川村 怜愛さん(茨城県土浦市立荒川沖小学校2年生)
 前田 壮一郎さん(香川県高松市立太田南小学校3年生)

《大内賞》

榊原 和子氏(福島県 統計調査員)
 日根 裕子氏(和歌山県 統計調査員)
 美谷島 和子氏(長野県 統計調査員)
 吉原 節子氏(福岡県 統計調査員)

《平成29年度「統計の日」標語》

特選
 近松 清司氏(滋賀県守山市統計調査員)

受賞者謝辞

各種表彰の後、受賞者代表として、「統計調査功績者」において総務大臣から表彰された千葉県の金井直美氏から謝辞が述べられました。

統計・データサイエンス活用セミナー

表彰式終了後、「統計・データサイエンス活用セミナー」を開催しました。

このセミナーは、受賞者による実績や作品を広く紹介することにより、統計の進歩・発展と普及啓発に資することを目的とし、慶應義塾大学大学院教授の渡辺美智子氏の司会により、地方公共団体における統計利活用表彰受賞2団体及び第65回統計グラフ全国コンクール大臣賞受賞者によるプレゼンテーションが行われました。

《地方公共団体における統計利活用表彰》

総務大臣賞を受賞した静岡県の「ふじのくに」少子化突破戦略の羅針盤について、静岡県健康福祉部理事の河森佳奈子氏が発表しました。

続いて、統計局長賞を受賞した東京都豊島区の「GISポータル構築による業務改善」について、東京都豊島区都市整備部都市計画課街づくり情報コーナー主任主事の酒井和広氏が発表しました。



統計利活用受賞団体の発表の様子

《第 65 回統計グラフ全国コンクール》

総務大臣賞を受賞した、福永嘉恩さん（大阪府吹田市立千里丘中学校3年生）が、受賞作品「私に出来る社会貢献」について発表しました。

高齢社会を迎えた日本にとって社会福祉の在り方を考えるときに、互いに助け合う、互助のシステムは欠かせません。世界の中において日本で進んでいない互助に対して、寄付の視点から、公的統計や民間の統計を活用してその実態をまとめました。

まずは自分にできることから始めようという提案も頼もしく、ゆっくり丁寧に発表されたことによって来場者の方に分かってもらえるように発表されたことについてすばらしいものでした。

発表の後、司会の渡辺美智子氏から「この作品を作成されてから、いくら寄付しましたか？」という質問に対し、福永さんから「100円です。」との回答に、会場はほほえましい空気に包まれました。

文部科学大臣賞を受賞した、三宅麗さん（兵庫県神戸市立友が丘中学校3年生）が、受賞作品「私たちにも出来る！外来生物の被害予防」について発表しました。

三宅さんは、この作品を作成するに当たり外来生物への意識と被害の実態を身近な中学生へのアンケート調査や公開されている統計資料からまとめています。

外来生物のイラストを交え、迫力のあるインフォグラフィックスの技術を多用し、知ってはいるけれど“関心がない”では済まされないことを『被害予防3原則（「入れない」「捨てない」「拡げない」）』の提案とともに発表しました。

外来生物である虫のイラストが非常に迫力のある構図となっていることから、司会の渡辺美智子氏から「虫は好きですか？」との質問に対し、三宅さんから「虫は嫌いですが虫の絵を描くことは好きです。」との回答に、会場は納得の空気に包まれました。

両作品とも、作品を作るきっかけとなった動機や作成過程における苦労した点など、受賞者の作品に対する熱い気持ちが伝わる発表となり、司会者や指導に当たった先生方のコメントも交えて会場は非常に盛り上がり、盛大な拍手が送られました。



統計グラフ全国コンクール受賞作品の発表の様子

統計グラフ全国コンクール入選作品の展示

会場入口には、第65回統計グラフ全国コンクール入選作品を展示しました。御来場になられた方々が熱心に御覧になられるとともに、多くの受賞者が御自身の作品の前で記念撮影をされていました。